

Profile プロフィール

講師

旭堂 南左衛門 (ナビゲーター、講談)

本名西野安彦。兵庫県三田市出身。近畿大学商経学部卒業後、三代目旭堂南左衛門入門し南学を貫く。昭和62年に真打昇進。旭堂南左衛門を創名。平成3年3月には第8回咲くやこの花賞(大阪市)を受賞。平成5年1月には国立演芸場花形演芸会金賞を受賞。平成17年上方講談協会会長に就任。最近では新しい講談の世界として「講演：講談の世界に観る戦国武将(信長・秀吉・家康)の人の心の掴み方」を各地で講演し好評を博す。

2000年日本テレマン協会主催の「ヘンデル：オラトリオ本邦初演シリーズ」に内容解説の講師として出演し、以来作家・中野順哉との二人三脚で「上方講談」の創作活動を積極的に展開中。「ヘンデル代記」をはじめ多種多様なジャンルにおよぶ講談を世に送り、後世に残したいという熱意を見せている。また二人の活動はバロック音楽とのコラボレーションにより大きく展開。「音楽絵巻」と題されたその企画はひろく受け入れられ、すでに全国40箇所以上で公演。2007年度より三井住友海上文化財団の支援もうけるようになった。安土は記念すべきそのスタート地点。

北島 都也 (ソプラノ)

滋賀県彦根市に生まれる。大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、及び同大学専攻科修了。関西二期会オペラスタジオ本科修了。びわこホール主催県民オペラ「シンデレラ」・「マルタ」に出演。ソロリサイタル、ジョイントリサイタル、サロンコンサート、学校公演、各種イベントなどに多数出演。福光IOX-AROSA 声楽サマーセミナー2003奨励賞。第10回様名梅の里スプリングセミナー奨励賞。第8回「長江杯」国際音楽コンクール声楽部門第3位、入賞者披露演奏会に出演。これまでに、声楽を安田年子、林誠、E.ラッティの各氏に、日本歌曲の解釈を土肥みゆき、歌唱法を塚田佳男の各氏に師事。関西二期会会員。

竹内 公一 (テノール)

新潟市出身。東京芸術大学に学ぶ。在学中に「メサイア」のテノールソロデビューした後、パッサ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「マニフィカト」「カンタータ」、モーツァルト「レクイエム」「戴冠式ミサ」、ハイドン「天地創造」「四季」ミサ曲、ドヴォルザーク「スタバト・マテル」などの宗教曲のソリストとして多数出演している。また「第九」のソリストなどオーケストラとの共演も多い。歌曲のタペ、ロビーコンサートへの出演や、アウトリーチ活動も積極的に参加している。98~08年3月びわ湖ホール声楽アンサンブル歌手。

追田 浩一 (リコーダー)

幼少より、ヴァイオリンを、後にトランペットと声楽を学ぶ。リコーダーをエヴェルト・ヘンゼラーに師事。平成16年度追田社中の活動に対し大阪ガス福祉財団より福祉助成を授与。様々な分野のアーティストと積極的にコラボレーションを行い、幅広い演奏活動を展開する。平成18年ダンスユニット「セレノグラフィカ」、照明家の岩村源太らとともにヨーロッパ(フランス・イギリス)でのフェスティバルに招聘され高い評価を受ける。現在はソコを中心に各種のライブで積極的な演奏活動を展開するとともに、音のワークショップなどにも意欲的に取り組む。後進の指導にもあたっている。

近藤 昌子 (バロック・ヴァイオリン)

京都市堀川高校音楽科(現京都市立音楽学校)卒業。京都市立芸術大学音楽学部卒業。90~93年オランダに留学。デンハーグ王立音楽院バロック科修了。サーティフィケートを取得。89~97年東京パッサモーツァルトオーケストラ、パッサコレギウムジャパン等で活躍する。95~97年大阪府立夕陽丘高等学校音楽科講師。現在は後進の指導のほか、ソロ、室内楽、オーケストラ等で積極的に活動している。これまでに橋本寿子、岩淵龍太郎、S.クイケン各氏に師事。

信長が愛した音楽

上田 康雄 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)

京都生まれ、京都市立芸術大学音楽学部において作曲、チェロを学ぶ。在学中より京都市交響楽団に入団。90年より3年間オランダに留学。デンハーグ王立音楽院およびアムステルダム古楽アカデミーに学ぶ。鈴木秀美、J.T.リンデンの各氏に師事。東京パッサモーツァルトオーケストラ、パッサコレギウムジャパン等で活動。現在、京都フィルハーモニー室内楽団のメンバー。

城 奈緒美 (ポルタティーフ・オルガン、パイプオルガン)

神戸女学院大学音楽学部パイプオルガン専攻卒業。滋賀大学大学院経済学研究科修士課程修了。オルガンを井上圭子氏に師事。スイス、スペイン、イギリスなど国内外の国際オルガンアカデミーにて研鑽を積む。文芸セミナリヨ専属オルガニストとして、文芸セミナリヨを中心に国内のコンサートホールや教会等で演奏活動を行う。パイプオルガンという楽器をより身近に感じていただきたいと、お話を交えたコンサートは特に好評を博す。6月22日には文芸セミナリヨにて、スロヴァキア交響楽団とラインベルガー「オルガン協奏曲 第2番」を共演予定。コンサートの企画・運営に携わるほか、後進の育成につとめている。日本オルガニスト協会、日本文化経済学会、各会員。

あふみヴォーカルアンサンブル (合唱)

1998年滋賀県長浜市にて結成。「あふみ」とは、「琵琶湖」を意味する「淡海(あはうみ)」が転じたもの。結成当初より一貫して指揮者を置かず、各団員の音楽的感性のぶつけ合いと融合をモットーに音楽作りをしている。タリス・スコラズ指揮者のピーター・フィリップス氏のレッスンを受け、ルネサンス時代の世俗曲・宗教曲を中心に取り組みを続けている。一方で、近現代曲や日本の童謡・唱歌なども取り上げている。近年は、古楽器(リュート・リコーダー)やオルガンとの共演も多く、活動の場を広げている。クリスマスコンサートを主に公演を主催するほか、地域の行事や学校公演などで合唱の楽しさを伝える活動も展開している。2008年には創立10周年を迎え、8月17日に文芸セミナリヨにて「10周年記念演奏会」を予定している。



・ソプラノ 中城宗子 西澤加代
・アルト 岩田ひとみ 長谷部茂子 福本奈美 藤令子
・テノール 久保田一臣 山下毅彦
・バス 長谷部健 福本憲司 山田良夫

バードコンサート (合唱) 甲賀市出身。高校の同級生。学生時代に3人のコーラスアンサンブルを結成し学園祭に出演。その後、ブランクがあったがヨーロッパのルネサンス音楽に惹かれ約20年前にバードコンサート(男女計4~6人)を結成。ルネサンスの宗教音楽やマドリガルを歌っている。グループの名前の由来はイギリスの作曲家ウィリアム・バードによる。



・テノール 大島淳平
・バス 木田精一

中野 順哉 (シナリオ、プロデュース)

作家。日本テレマン協会代表代行。小説作家・阿部牧郎、浄瑠璃台本を人間国宝の七世鶴沢寛治、歌舞伎台本を中村鴈雀の各氏に師事。関西学院大学文学部フランス文学科卒業。在学中より日本テレマン協会の活動にライターとして参加。93年には同協会の季刊誌「ゲオルク」を立ち上げ、95年には編集長に就任。卒業と同時に作家・阿部牧郎に師事。98年、日本テレマン協会事務局広報部を創設。2000年4月、伴ピエール社製の琵琶湖浄化の紙(レイクパピルス)を、チラシ、プログラムやゲオルクの表紙に使用。テレマン協会の活動が年間5,000トン以上の湖水を浄化するというこの企画は、テレビ、ラジオ、新聞等で大きく取り上げられ話題を呼んだ。



同年9月、日本テレマン協会第137回定期演奏会「ヘンデル・オラトリオ本邦初演シリーズ「スザンナ」において、ナレーション用の講談台本を執筆。これを機会に旭堂南左衛門とともに創作講談を手掛ける。同時に各地の歴史を掘り起こし創作講談と音楽のコラボレーションをプロデュースしながら、文化振興につとめている。講談は処女作「ヘンデル代記」にはじまり、「講談：凶性命合戦」「講談：信長の聞いた音楽」「講談：徳川吉宗」「講談：近江商人 銘々伝」「講談：利家の聞いた音楽」「講談：宮本武蔵」「講談：佐々木兵衛捕物帳外伝〜おさん 茂兵衛〜」「講談：源平盛衰記：熊野古道編」「J.S.バッハ代記」「ヴィヴァルディー代記」「講談：アマテウス」「講談モーツァルト VS ベートーヴェン」「講談：西村伊作」「講談：走れメロス」(原作：シラー「保障」)「怪奇講談：道中奇談」(原作：ゲーテ「魔王」)ほかすでに50作以上にのぼる。

作家活動としては2000年10月には「小説・延原武春」を出版。現役の音楽家を題材にしたこの作品は、新聞各紙がとりあげ話題となった。「音楽家の全体像に迫る小説」「ミステリーめいた部分もあって、音楽ファン以外でも楽しめる」と好評。

安土町文芸セミナリヨ

(財)安土町文芸の郷振興事業団
〒521-1321
滋賀県蒲生郡安土町桑実寺777番地
TEL.0748-46-6507
E-mail : bungei@hottv.ne.jp
http://www.hottv.ne.jp/~bungei/



イベント
盛りだくさん!

あつち信長まつり
2008 (6/1(日))
安土町内一帯で盛大に開催

歴史講演会 6/1(日)
午後3時
講師：加藤 廣
入場料：1500円(全席自由)
会場：文芸セミナリヨ